

内容項目名 よりよい学校生活， 集団生活の充実 （内容項目 C－（16））
 資料名 「米百俵」（出典「心をつないで」教育出版）
 学校名 柏市立大津ヶ丘第二小学校 指導者名 平井 世紀

1 学習指導案

小学校 6年2組 道徳学習指導案

平成29年11月1日（水）5校時

(1) 主題名

「卒業までの学校生活で大切にしたいこと」

(2) ねらい

登場人物の言動について考えることを通して，自分たちの生活を振り返り，学級や学校，身近な集団を愛する心を具体化しようとする心情や態度を養う。

(3) 主題設定の理由

高学年の発達段階においては，高学年としての自覚をもち，学級や学校，身近な集団を愛する心を具体化できるようにすることが必要である。特に，学校における学級集団，児童会やクラブ，特設部活動などの身近な集団において，自分の立場やその集団の向上に資する自分の役割，個人の力を合わせてチームとして取り組んでこそ達成できることなどを自覚して，様々な活動に積極的に参加できるようにしていくことが重要である。また，6年生の折り返し地点に差し掛かり，日に日に卒業が近づくなかで，自分たちを6年間育ててくれた学校のためにできることを考えていくことも重要であると考えます。

そのために，現時点での彼らの6年生としての満足度を自覚させ，何が足りないのか，これから何を大切にしたら良いのかを考えさせたい。「満足度」は集団への貢献度であり，所属感をいかに高めているかということと関わってくる。本時の学習を，6年生としての自らの姿を見つめ，これからの生活でいかにあるべきかを考えるきっかけにしたい。

(4) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導入 (10)	1 卒業まで半年となった今の自分を見つめる。 ○6年生として，今の学校生活に点数をつけるとしたら何点ですか？ ○足りないのは何かな？	・80点 ・思いやり	・卒業に向け，学校生活に関する意識を高め，課題意識を持たせる。 ・自分だけの満足感でなく，学校のリーダーとしての満足感にも触れる。
展開 (30)	2 学習問題を立てる ④ 6年生として，卒業までの学校生活で大切にしたいことは何だろうか？		・授業前と，授業後の問いに対する意識の変化を自覚させたいので，まず自分なりの意見を書かせる。
	3 教材文を読んで話し合う ○米百俵を任された虎三郎は，どんなことを考えただろうか？	・藩の苦しさは，変わらない。 ・今は我慢しよう。 ・藩を救わなければならない。	・任されたリーダーとして，苦しい人々のことを考えながら，どうすることが一番良いかを真剣に考えている点をおさえる。

	<p>○学校を作ろうと考えたのはなぜだろう？</p> <p>○藩士たちが納得したのは、なぜだろう？</p> <p>4 自分に返す</p> <p>◎虎三郎の決断から、あなたはどんなことを学びましたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからのことを考えよう。 ・未来のために、人を育てなければならない。 ・虎三郎の思いが伝わったから。 ・他の藩士から強い反対を受けても、一人で立ち向かったのは勇気があると思う。 ・本当は自分も辛いのに藩のために決断したのがすごいことだと思った。 ・目先のことだけではなく、未来のことを考えて決断することの大切さがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反対されることがわかっていながら決断した理由に迫る。 ・グループトークの中で、友達の様々な気づきを交流し、見方を広げる。
終末 (5)	<p>5 本時の学習を通して考えたことをまとめる。</p> <p>○6年生として、卒業までの学校生活で大切にしていきたいことを書きましょう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・問いに対する意識の変化を自覚するために自分の意見を書かせる。 ・必ずしも、学校全体のためだけではなく、学級内における自分のなりたい姿を思い浮かべる児童もいると思うが、そこは許容したい。

(5) 他の教育活動との関連

- ・本学習を通して児童が考えたことや感じた思いを、学級活動をはじめ、日常生活の中で具体化できるようにつなげていきたい。
- ・本学習のように、先人の考えから学ぶという姿勢は、社会科の学習にもつながっている。先人の努力を知り、我が国や郷土を愛する心も育てていきたい。

2 事後検討会

(1) 授業記録

- T 6年生になって7ヶ月が経ちました。6年生は、学校の中でどんな存在ですか？
- S リーダー的な存在。
- T では、6年生として、今の学校生活に点数をつけるとしたら何点ですか？自分としては何点？そして6年生としては何点でしょうか？
- S 自分としては、50～70点ぐらい。6年生としては、70～80点ぐらい。
- T この足りないのは何かな？

S 自分から一步踏み出せないところ。
S 同じことを何度も注意されるどころ。
S 器が小さく、優しくないところ。
S やっちゃダメなことをやってしまうところ。



T それでも80点！高いですね！！高い理由は何ですか？
S 1年生と遊んでいるから。
S あいさつができるから。

T 6年生として、卒業までの学校生活で大切にしたいことは何だろうか？
どういうことを大切にしたいのか、現時点での考えをノートに書いてみよう。
(最後に聞くため、ここでは発表させなかった。)

それでは、「米百俵」を読んでいきましょう。(本文を読む)
T 内容を確認していきましょう。
何県？何が有名？どこの藩のことですか？



S 新潟県。お米が有名。長岡藩。
T 何が起きたの？くらしはどうなったの？
S 戦争。戊辰戦争。家や田畑が焼かれた。種籾も食べた。
まずしい。死人も大勢出た。

T 長岡藩は、戊辰戦争で負けた側です。7万石あった領地が
2万石に減らされました。みんなの家が急に3分の1になったら満足に暮らせる？

S ううん……。

T 米百俵が送られてきた時は、どんな気持ちだったでしょうか？

S うれしかった。

T 相当ですよ。この米百俵をどうするかは、小林虎三郎に任せられました。任せられると言うことは虎三郎はリーダーだということですね。そして、ある決断をします。

T その決断をするまでに虎三郎が考えたことはどんなことでしょうか？(ペアトーク)

S 米をわけると量がちがう。

S 1人分が少ない。2日分しかない。

S 分けてもどうせ死んでしまう。

S どうしたら米百俵分の価値になるか。

T そして決断を下しました。どんな決断ですか？

S 米を売って学校を建てた。

T なぜ学校を建てたのかな？

S 給食が出るから。

S 子どもの未来を考えたから。

S 体が弱い人にも、食事を与えられるようにするため。

S 社会のため。

S 頭が良い人がその問題を解決してくれるかもしれないから。

S 親がいない子も救われるから。

T それに対して、他の藩士は？

S 反対した。

T どうして？

S ご飯が食べたいから。

S 自分のこと、食べることしか考えていないから。



T 自分だったら、どっちの考え？ (全員が藩士の方を選んだ。)

T でも結果的には、藩士も虎三郎の考えに納得しましたね。
どうして藩士は納得したのですか？

S 他の藩士や、年下のことを考えようとしたから。

S 虎三郎がなぜ学校を建てたいのかを説得したから。

S これで豊かになれば、他の藩士たちにもお金をあげられるから。

T 説得するには、何が大切だったのかな？

S 必死さ。

T 強い思いが大切だったんだね。

T それでは、虎三郎から学んだことを考えてみましょう。

S 米の大切さを学んだ。

S 自分の考えをしっかりとって、いつでも未来のことを考えている。

S 自分のことだけじゃなく、みんなのことも考え、思いやりの心を大切にすることが必要。

S 自分の事よりも、他の人の未来を考えたとする。

S 未来を考えて、今しか考えていない人を熱く説得すること。

S 自分が先ではなく、年下や他人を第一で考えることが大切。

T どれだけ虎三郎が素晴らしかったかがわかりますね。

T それでは学習問題に戻って、もう一度書いてみましょう。

S 自分だけではなく、器の大きい人になりたい。

S まわりの人のことを考えることも大切にしたいです。

T 考えが初めと変わっているといいですね。



(2) 授業の感想

(児童の感想)

- ・ 虎三郎から、新しいことに踏み出す力を学んだ。
- ・ 自分の考えを伝えたいときには、熱い思いで説得することを学んだ。
- ・ 決断を下すまでには、自分中心で考えず、いろんな視点で考える大切さを学んだ。
- ・ 自分たちがリーダーであることを忘れないで生活していきたい。
- ・ 先のことを考えながら行動できる6年生になりたい。自分たちだけではなく、下級生のことも大切にしていきたい。

- ・これから話し合いの場では、周りの人や下級生のことを考えながら決めていきたい。
- ・わたしたち6年生が学校を変えていきながら、来年6年生になる5年生にも未来のことを考えて引き継いでもらえるようにしたい。

(保護者・地域の方の感想)

- ・板書もよく書かれていて、子どもの意見を取り上げていて良いと思いました。
- ・先生が子どもたちの発表を最後までよく聞き、意見をよくまとめていました。
- ・子どもたちが、たくさん考えを発表していて素晴らしく感じました。6年生らしい立派な考えが出ていて、有意義な1時間だったのではないかと思います。
- ・ねらい（学習問題）と終末の振り返りのつながりがはっきりとしていて、流れがわかりやすかったです。
- ・先生のテンポの良い進め方や、時々ユーモラスのある声かけも子どもたちを引きつけていると思いました。
- ・導入が少し長く感じた。ペアトークが多かったが、クラス全体で意見を交流する時間がもっとあれば良かった。

3 本事例の活用に関する留意点

(指導上の留意点)

今回の授業は、C－(16)「より良い学校生活，集団生活の充実」という内容項目で行った。小学校6年生対象に卒業に向けてとしたが、この資料はC－(17)「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」という内容項目にも合致する。授業を行う際には、どこにポイントをおいて授業を行うのか、授業者がよく考えておかないと、焦点のはっきりしない授業になってしまう。内容項目と授業の視点をはっきりさせておく必要がある。